



近年、暖冬の影響により休眠覚醒に必要な低温が確保しにくい年があり、ハウス桃栽培では加温開始時期の判断が難しくなっています。

そのような中、農研機構育成の「さくひめ」は低温要求量が少なく温暖化対応品種として注目されています。

また、休眠覚醒期の予測には7・2度以下低温積算時間が簡便法として利用されていますが、精度の高い予測法として農研機構により「白鳳」のDVR（発育速度）モデルが開発されました。

このモデルは休眠覚醒に向かう各温度の1時間の発育速度をDVR値で示し（16〜15度の間で有効、3〜9度で効果大）

その積算値がDVI値（発育指数）となります。そこでDVRモデルを用いて「さくひめ」の休眠覚醒期を予測しました。その結果、DVI値が「さく

ハウス桃「さくひめ」休眠覚醒期

DVRモデルで予測 暖冬年でも栽培安心

DVR(発育速度)モデルによる休眠覚醒予測日^(z)

年産	さくひめ	日川白鳳	天候(y)
	DVI値 0.7到達日	DVI値 1.0到達日	
2016	1月13日	2月 3日	暖冬
2017	1月11日	2月 1日	暖冬
2018	12月29日	1月19日	寒冬
2019	1月 6日	1月27日	暖冬
2020	1月13日	2月 3日	暖冬

(z)長崎県大村市鬼橋における予測
(y)気象庁による西日本の冬(12~2月)の天候

ました。

このように「さくひめ」は少ないDVI値（すなわち少ない低温）で生産が可能で、暖冬年でも安心して栽培ができることが明らかになりました。

引き続き、出荷時期に応じた効率的な加温開始時期を検討する予定です。

ひめ」は0.7以上、本県主品種の「日川白鳳」は1.0以上で休眠覚醒し、安定開花する（加温開始後40日以内に開花率50%以上となる）ことが分かります。
（長崎県農林技術開発センター 果樹・茶研究部門ピフ・落葉果樹研究室主任研究員 松本紀子）